



5月19日(火) 「冬の空」

徳島県出身の画家・関政明さんが25歳の時に脊髄腫瘍で2回目の手術をした時のお話です。生死をわける手術を受けた筆者の心情の変化を通して、精一杯生きることの大切さを実感し、今を生きるということについて考えました。

みんなの感想

1年生

- 冬の空を読んで、自分が生きていることは当たり前じゃないと思いました。これからも自分の命を大切にしていきたいです。
- 自分には大事な命があり、何かあったら怖いと思う心もあるので、これからも生きている実感や楽しさなどを、今のうちにたくさん学んでいきたいです。
- いつも当たり前のようにしていることや見ていることは、当たり前だと思っていました。しかし、生きているからこそ、見えたり動いたり感じたり、いろいろなことができるのだと思います。もっと命を大切に生きていきたいです。当たり前だと思っていたことが当たり前じゃなくなる時もあるので、日常の一つ一つに感謝して過ごしたいです。一日一日を大切にしたいと思いました。
- 自分が苦しくてつらくても、生きていることがすごく大切なことに気がつきました。一度でも死んだほうがましだと思ったとしても、なにか幸せを見つけることも大切だと思いました。
- 自分もこれから先にどんな苦しいことがあっても、決して諦めないで「生きる」という言葉を胸に刻んで強く歩いていこうと思いました。周りにも苦しんでいる人がいたら、寄り添います。
- 生きる希望を強くしようと思いました。関さんは生きられるか不安だったと思うし、辛くて生きるのが嫌になっていたと思います。しかし、頑張ったから70歳まで生きて、もう一度空を見られてよかったと思いました。
- 関さんが諦めていたら色々なことで評価されることは無かったし、深い青の冬の空を見て生を感じることもなかったと思います。どんなに苦しくても生きるのを諦めたら何も残らなかったから、諦めないでいきたいです。

2年生

- もし自分が難しい手術をうけることになる考えると、すごく怖いとしても不安です。しかし、そんな時に身近な人や物に助けられるのだと感じました。
- 私と同じ徳島県出身の方が、このような生死にかかわる病気になったと思うと、がんなどの病気は他人事ではないと思いました。今生きている場所の、何気ない風景や気に止めていなかった空にも「あたりまえ」が隠れていると思います。
- 麻酔がきれた時の苦しさや、難しい手術と聞いた時の怖さは、辛かったと思います。自分も今ある命を大切に、しっかりと生きていきたいです。
- 手術で苦しい思いをしていたが、それを乗り越えて久しぶりに冬の空を見たから、感動して嬉しかったのだと思いました。苦しい思いを乗り越えたから味わえる感覚なのだと思います。
- 関さんの「いっそ、麻酔が覚めなかった方がよかった」のところで、そんなことを思うくらい追いつめられる気持ちは今の私には分かりません。しかし、そこまで追いつめられたからこそ関さんが感じた、生きている実感と喜びを想像することができました。改めて生きていることは素晴らしいことだと思いました。
- 手術が怖いし、死にたくないと思う気持ちが関さんにあったと思います。自分でも怖いと思いました。そして、空の青さが染みて涙が出るほど辛かったのだと思います。自分の体に感謝して生きていきたいです。
- 自分もICUに行ったことがあるので、作者の気持ちに共感しました。ICUには窓がなかったので、また元の病室に戻れて、改めて青い空を見ると「自分は生きている」ということが分かったのだと思いました。
- みんなが同じような生活を送っているわけではないので、自分らしく生きていこうと思いました。

3年生

- 関さんは腫瘍で2回目の手術が成功するか不安でしたが、成功して本当に嬉しかったのだと思いました。私たちも、あたりまえに友だちと会って、家族と話せていることを喜び、一日一日を大切に生きようと思いました。
- 25歳という若い年齢で治すのが難しいがんを罹って、手術の前すごく不安だったと思います。そんな非日常から普通の暮らしに戻れた時、本当に嬉しくて涙が出たのだと思いました。
- 私は大きな病気をしたことがありませんが、このお話を読み、「当たり前」を大切にしたいと思いました。朝起きたら家族がいて、学校には友だちがいて、何があっても傍にいてくれる人がいることを自覚して過ごそうと思いました。この日常がいつ壊れるか分からないので、日々感謝していきたいです。
- いつも普通に見ている空だけど、苦しくて辛い思いをしてきたら涙が出るくらい綺麗に見えるのだと思いました。毎日楽しく過ごせることは普通じゃないと分かり、毎日大切にしたいと思いました。
- 手術は受けたことがないですが、凄く怖いと思います。手術後は呼吸だけでなく、心も苦しいのではないかと思い、怖いです。久しぶりに空を見た時、「自分は生きている」と実感して涙が出たのだと思います。生きているのは当たり前ではないので、命を大切にしたいです。
- 文章にあった「無傷の青空」や「再びの青空」という言葉から、不安だった手術や術後の苦しさを乗り越えて、筆者の病気が完全に治ったのだと思いました。また、筆者の感じている、生きていることへの嬉しさなども表れているのだと感じました。
- この学習をして、今を大切にしていきたいと思いました。また、周りにいる人も大切にしていきたいです。

きりとり

この通信をご覧になったの感想などをお書き下さい。返信欄は切り取ってお子様を通じて担任まで提出して下さい。ご協力よろしくお願いたします。